

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400906		
法人名	社会福祉法人函館大庚会		
事業所名	グループホームこんはこだて		
所在地	函館市時任町35番4号		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町村受理日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigvosyoCd=0171400906-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0171400906-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の季節行事、地域住民や世代間交流を目的とした地域行事への参加を積極的に行う他、地域の高等学校のボランティア活動の受け入れを積極的に行っている。また、地域に向けてグループホームの存在をアピールする企画等を立案したり、地域への広報活動を行うことで、入居者への理解を深めて頂けるよう働きかけている。ご家族に対しては、グループホームの生活を毎月の広報でお知らせするとともに、認知症高齢者を支えるチームの一員として、ご家族の存在が必要であることを伝え、意識して頂けるよう努力を続けている。入居者は、30歳程の年齢差があり、入居年数が長い入居者は重度化しているため、これまで以上に個別化したケアが求められるようになっているため、それぞれの年齢や生活歴に合わせた生活が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

五稜郭地区の繁華街から少し離れた閑静な住宅街に位置し、利用者も街中で地域と繋がりがながら支援を受けて暮らしている。利用者は地域の高等学校や保育園とイベント参加などで連携があるほか、ふれあい会食など地域の行事に参加して交流し、特に町会役員が気軽に事業所を訪ねる関係を作り、栗等の季節の差し入れもあり、栗ご飯や栗きんとんに調理して利用者からも大変好評である。又、町会から認知症の情報があり、地域包括支援センターとも連携をとって、事業所への入所に繋げた。さらに、利用者と高校生が植えた花から種を取り、春には一緒に植えて育苗し、地域に配る企画を実践する。医療関係は、協力医療機関の充実と訪問看護師との連携で、点滴を事業所で措置できる環境である。管理者は、常に、これらから生じる職員の慣れや甘え等への脅威を抱き、職員の育成には法人の積極的な研修への参加と個々の基礎的スキルアップ研修の目標を樹立して、自己評価と周りの評価を公表し、笑顔での支援等、理念に謳う介護支援に向けて、少しずつ改善を目指す事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で一人ひとりが自分らしく当たり前の生活を送る」を運営理念とし、理念を印刷したカードを身分証明ケース等で携帯するとともに、グループホーム内の数か所に理念を掲示している。	毎月開催するミーティング等において事業所理念である「自立を目指し自由と笑顔で利用者と過ごす」を原点として共有に努め、自己決定が難しい利用者の思いの実現に向けて、事ある毎に立返り、実践に反映できるよう取組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、ふれあい会食等の高齢者向けの行事への参加、地域交流イベントの開催、地域の高校生のボランティア活動を定期で位置づけする等し、地域や世代間交流を図っている。	地域のふれあい会食等に参加し、事業所行事の餅つき、防災訓練等へ地域住民が参加するなど、双方参加で交流し緊密な関係を継続している。地域の高等学校などとも連携が図られ、車椅子の清掃と街へ出て操作を体験し、異世代との交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流イベント等の他、地域へ向けた広報の発行を年2回行い、住民が持っている認知症の理解を深められるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方より日頃の交流を通して、率直なご意見を頂き、グループホームが抱える課題等について助言や提案を受け、サービス向上に活かしている。	町会役員や行政、地域包括支援センター職員、家族に案内をし、年に6回開催して、運営状況、行事などを報告し、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。家族の参加が思わしくないので、会議への参加についてアンケート調査を行い、意向の把握に努めたが、曜日や時間を定めるまでに至っていない。	運営推進会議は、家族、地域の人たちが運営を見守ったり、協力者として助言するなど運営上重要な意味、役割を果たす会議として位置づけられている。利用者と家族の参加が思わしくないので、何が原因かを個別に話し合い、具体的に把握して対処し、徐々に参加人数が増加するよう期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のご案内を行い、参加を依頼している他、サービス向上に必要な研修の開催を要望する等している。また、市の高齢者相談窓口担当者より、グループホーム入居に関する相談を受ける等している。	市からは新規入所に係る情報提供があるほか、事業所からも報告物持参時や電話などで、疑問点や問題点を気軽に意見交換できる関係にある。また、虐待や身体拘束への研修会開催の要望をするなど、何時でも話せる協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修へ参加し、身体拘束をしないケアへの理解を深め、正しい知識を持って日常のケアに努められるようにしている。また、スタッフミーティングやケア会議等において、身体だけでなく、言葉や環境的な拘束等についても、話し合っている。	法人は、職員のレベルアップ等の人材育成に積極的に取組んで、身体拘束や虐待防止等の外部研修や内部研修には参加を呼掛け、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠は夜間のみで、利用者が何時でも外出できる体制がある。外出志向の利用者には、タクシー料金と携帯電話を持参して同行し、自由な行動を支援し、その意向が変わるまで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修へ参加し、虐待について理解を深め、虐待を見逃さないように努めている。また入居者にとって何が虐待になるのかを考えるよう意識できるように努めている。		

グループホームこんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修を位置づけ、外部研修への参加を促し、権利擁護に関する制度の知識を持てるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書・重要事項説明書・医療連携説明を基に説明を行い、理解と納得を得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、入居者から要望等を聞き取り、意向を伝えられない方に対しては、表情等から思いを感じ取れるように努めている。ご家族に関しては年1回のアンケートを実施し、来所時や電話等で要望やご意見等の聞き取りを行っている。	利用者の意見、要望は毎日の会話、表情から意向の把握に努め、家族とは手紙で利用者や薬の変化等の詳細の他、暮らしの様子も加えて情報を提供し、意見が出やすい環境作りに取り組んでいる。広報紙を毎月発行して2年を経過し、家族とはコミュニケーションが深まり、発刊を楽しみに待っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々のスタッフの生活や心理状態、健康状態、日頃の勤務姿勢等から努力や実績を評価し、適宜面談を行ったり、スタッフミーティング等で意見交換や提案を聞く機会を設け、スタッフの自主性を引き出せるように努め、年間の企画立案のほとんどを任せている。	利用者の年齢差が30歳に広がり、体力や行動、趣味等にも格差が生じたため、3班のチーム制とリーダーを決めて責任体制を整え、より細やかな介護支援へ繋げる取組みがある。行事の企画は職員に委ね、計画と実施の状況を見て反省を加え、次回の企画に生かす等の工夫がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務や役割整理を行うことで休憩時間と勤務時間のメリハリが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会への参加を奨励し、法人全体としてスタッフ育成に力を入れ、取り組んでいる他、スタッフミーティングや研修内容の周知により、専門職としての意識と知識を身につけられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の勉強会や交流会へ参加したり、認知症介護実践者研修の施設実習の受け入れにより、他施設の取り組み等の情報を得られるようにしている。		

グループホームこんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一部センター方式を活用しながら、入居前、入居時にご本人との話し合いの時間を持つことで、信頼関係の構築に努め、安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時の面談や話し合いの他、入居後もご家族との時間を持つことで、ご家族の意向等を聞き取りをし、支援につなげることで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴や成育歴を含めたアセスメントを繰り返しながら深め、現在の状態から必要とされる支援を導き出し、施設サービス以外にも必要と思われるサービスも含めて対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、入居者の残存能力を引き出し、活用する支援に努め、残存能力を発揮できる機会を設け、得意なことは職員が教えて頂いたり、助けて頂ける関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ運営推進会議や地域交流企画への参加を呼びかけたり、年に数回、ご本人からご家族へ葉書を出し、毎月ご本人の状況を手紙や電話でお伝えする等して、ご家族との絆が保たれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人に来所して頂けるようにご家族へ働きかけ、友人や知人に対して、気楽に足を運んで頂ける雰囲気作りを心がけている。外出や外泊、旅行等について、ご家族や医療機関と連携を図りながら実対応している。	昔馴染みの美容院や理容室へ通い、商店での買い物等で継続支援を図り、友人・知人等の訪問には、居室やリビングを使用して気楽に歓談できる空間を作り、再来訪に繋げる気配りがある。又、年賀状や暑中見舞い等で、友人や知人等との連絡を取持ち、関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居後も友人や知人に来所して頂けるようにご家族へ働きかけ、友人や知人に対して、気楽に足を運んで頂ける雰囲気作りを心がけている。外出や外泊、旅行等について、ご家族や医療機関と連携を図りながら実対応している。		

グループホームこんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀へ参列したり、サービス終了後にもご家族からの相談に対応する等、関係を断ち切らない取り組みをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族への聞き取り、日々のアセスメントやモニタリングを行うことで、一人ひとりの希望や意向等の把握に努めている。	日常会話や利用者の日頃の何気ない発言から、思いや意向を掴む取組みが大切であると管理者は指導している。又、表現が困難な利用者には、眼の表情や首の振り方等の身のこなし方に注意を払い、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族への聞き取りの他、入居前後のアセスメントとモニタリングにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントやモニタリング、定期的な情報の整理を行い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いやご家族への意向の把握に努め、ケアプラン原案を基にケア会議を行い、現状に即したケアプランを作成し、状態が変化した時は、速やかに見直しを行い、ケアプランを作成しなおしている。	利用者・家族から意向把握の他、日々の職員の情報や毎日記録する連絡ノートなどにより計画原案をまとめ、ケア会議にて修正や加減して利用者本位の介護計画を作成している。状態の変化時には、家族の訪問時や電話、手紙で説明の上、了承を得て速やかな計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実践し、気づき等を個別に記録したり、連絡ノートに記載する等し、情報の共有を行い、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に合わせ、外出支援をしたり、必要に応じて受診同行する等している。看取りの際には、ご家族に対して食事の提供を行う等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の避難訓練で地区の消防署へご協力を頂き、グループホームの行事等に関しては、町内会や近隣保育園等からご協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、入居前からかかりつけ医療機関への受診支援をしている他、連携する医療機関として、隣接する診療所や整形外科、歯科、眼科等の医療支援が受けられる体制を確保している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。専門的医療はかかりつけ医とし、内科・外科などは、事業所から協力医療機関の状況を説明して利用者と家族の希望を聞き、受診支援にあっている。かかりつけ医へは、家族が協力医師の手紙を持って受診対応を行い、受診状況の報告を受けて、双方情報を共有している。	

グループホームこんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所して看護職員は配置されていないが、訪問看護ステーションと連携を図り、週1回の健康チェックによる健康管理のほか、入居者の健康状態に関して、常時相談できる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先へ入居者の情報を提供することで普段の状態を把握しやすいように努め、入院中の面会や看護師等と情報交換を行う等して、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に基づき、入居時にご家族へ口頭および文書にて説明を行っている。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に利用者と家族に説明し、同意の押印を得ている。協力医の医師が常勤に近い状況にあり、昨年も訪問看護師とチームを組んで看取りを行ったが、一部職員に経験と研修が不足しており、今後とも継続した指導が期待される。	経験と知識等を有する管理者が、重度化と看取りについての職員研修を実施して、利用者と家族の負担に応える体制づくりを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修において、AEDに関する研修会を実施しており、参加している。主たるスタッフに関しては、研修会へ参加する機会を設け、参加出来なかったスタッフへ伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、町内会や近隣住民に対し、災害時等の支援協力体制を築いている。また、地域の高校や小学校、町内会、関連施設と合同の避難訓練を実施し、実際の避難場所を確認する等している。	防災訓練は、夜間想定訓練を1回と3月に出来なかった訓練の日程を、消防署と現在調整している。又、近くの高等学校が行う地域防災訓練に、町会、小学校等と共に、利用者も車椅子で避難訓練に参加し、階段昇降の訓練も体験した。食料や水などの備蓄品は、3日程度確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人との親密感を大切にしながらも専門職としての適切な距離感を保ち、ご本人の誇りやプライバシー、自尊心を損ねないような言葉かけに努めている。	呼称は、苗字にさんを付けての呼掛けを基本とし、馴染の呼称については、利用者や家族と相談し、了解を得て使用している。法人内研修で、1年間毎月接遇研修を実施したため、利用者と同様の高さで会話をしている等効果が表れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望等を表現しやすいような雰囲気や話すスピードに注意し、一人ひとりが理解しやすい言葉かけに努め、日常生活全般で自己決定の支援を意識したケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の出来る事や出来る可能性のある事、やりたい事を見極めながら、一人ひとりのペースを大切に、意向を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の温度や天候、季節、年齢等に合わせた服装の支援を心がけ、身だしなみやお洒落にも配慮して支援している。		

グループホームこんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	視覚・嗅覚・味覚で楽しめるような食事提供に努め、スタッフが一緒に食事をしながら希望のメニューの聞き取りをしたり、一緒に調理を行うことで、楽しく食事が味わえるように支援し、片付けにも積極的に入居者が参加出来ている。	メニューは法人内の管理栄養士が作成するが、利用者の意向や食材に合わせた献立もできるため、日々の状況に合わせたメニューを作っている。又、外食や店屋物なども組合せ、介護しながらの同職同席で会話が弾み、楽しい食事に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接するクリニックの栄養士が立てた献立を基に、栄養バランスのとれた食事の提供に努め、入居者の摂取量等について記録し、スタッフ間で共有して把握し、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態や能力に合わせた支援をし、毎食後の方、朝・夜の2回の方がおられ、一人ひとりの能力に合わせた支援をし、口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜の状態や身体状態、体調等に合わせた排泄用品を使い分け、一人ひとりの排泄パターンでトイレ誘導・介助を行っており、日中のおむつ交換者はいない。	排泄パターンと顔色や素振り、動きに注意して、その時は、小声で呼掛けトイレでの排泄に繋げている。排泄の失敗には、気付かれないようにさり気なく誘導して処理し、さらには、退院後はおむつを外し、トイレ排泄に繋げる支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量を把握し、バランスの良い食事の提供に努めるとともに、個々の状態に合わせた服薬や腹部マッサージ等の排便コントロールを実施し、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	BPSD症状の強い入居者が数名おられるため、限られた時間となるが、個々のその日の状態に合わせて入浴時間を変更する等し、ご本人の意向を尊重しながらゆっくりと入浴できるように支援をしている。	特に曜日を決めず、主に午前中に入浴剤を使用し、脱衣所で音楽を流して、楽しい入浴に取り組んでいる。入浴を拒否する利用者には強制せず、清拭の様子を伺い、声を掛けながらタイミングを見て、週2回の入浴支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力、状況に応じて休憩時間を確保したり、適度な活動による適度な疲労を得られるように支援することで安眠が保たれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループホームで管理し、服薬時にご本人の能力に応じて、手渡しや口腔内への投与、見守り等の支援をしており、誤薬予防のため投与前に必ず間違いがないか2名で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備や食後の片付け、テーブル拭き、洗濯物たたみ等の家事への参加により、能力を生かした役割の担い手としての喜び、外出や行事、地域行事等への参加による楽しみを持てるように支援している。		

グループホームこんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や体調を考慮しながら戸員へ出かけられるように支援している。季節に応じた外出行事を企画し、多くの入居者が出かけられるよう内容を立案して実行したり、個別の希望に応じた外出支援をしている。	観桜や紅葉、冬のイルミネーションなど季節に応じた企画や理容室、散歩、買物など個別希望に応じるほか、外泊、温泉、食事、散髪などを家族の支援で行うなど、家族とも協同して利用者の思いや意向に添った外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が個人で管理することが難しいため、ご家族より必要最小限の金額をグループホームでお預かりして管理し、ご本人とご家族と相談しながら、いつでも使える状態となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の意向に合わせて電話の支援を行い、手紙等は必要に応じて代読する等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家具を配置し、季節や行事に応じた飾りつけ等を行ったり、入居者の状況や人間関係を把握した中で、共用部分の家具の配置等を変更することで、居心地のよい共用空間づくりに努めている。	居心地良い自由な場所として、適温・適湿に加え、照明にも気を配っているほか、年齢差が大きい場合、テーブルの配置換えや利用者の居場所を工夫している。服装についても画一的にせず、利用者にあわせて対応している。室内は清掃が行き届き、清潔が保持され、雑祭や誕生会のイベント開催の他、それぞれのペースで過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の人間関係や状態により、食卓の座席に配慮したり、リビングや和室にソファを配置する等し、自由に過ごせる居場所づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広報誌を通じてご家族に対し、部屋の環境づくりの意味をご理解頂けるように働きかけているが、消極的な状態が続いている。新しい入居者については、馴染みの家具を持参されることをお伝えしているが、新しい家具を購入して入居されており、ご家族の理解を得ることが難しい。	利用者と家族には、馴染みの家具等の持込を説明しているが、前利用者の家具等を引継ぐ慣例と、購入家具の持込から実現が困難である。遺影や家族写真が飾られ、裁縫道具や編み物用具等慣れ親しんだ物があり、入り口には、管理者手作りの表札と自室と認知できる表示に工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や洗面台に椅子を設置したり、テーブルの高さや配置を調整し、転倒の原因となるような環境的要因をつくらないようにし、目印になるものを取り付ける等し、場所の認識がしやすいよう工夫している。		